

橘朝臣奈良麻呂、集宴を結ぶ歌十一首

一五八一番

手折らずて 散りなば惜しと 我が思ひし 秋の  
黄葉を かざしつるかも

一五八二番

めづらしき 人に見せむと もみち葉を 手折り  
そ我が来し 雨の降らくに

一五八三番

もみち葉を 散らすしぐれに 濡れて来て 君が  
黄葉を かざしつるかも

一五八四番

めづらしと 我が思ふ君は 秋山の 初もみち葉  
に 似てこそありけれ